



蟹江 憲史

かにえ・のりちか 国際関係論、地球システムガバナンス。著書に「SDGs（持続可能な開発目標）」など。51歳。

SDGs（持続可能な開発目標）が2015年に国連で採択されてから6年がたった。30年に迫る目標達成の期限まであと9年。達成にはさまざまな変革が必要で、数多くの困難があると言われたSDGsだが、コロナ禍で、さらに多くの目標について達成への距離が遠のいている。他方、コロナ禍で崩壊した社会制度や仕組みを再構築する動きが、SDGs達成に向けた変革への好機になる、という機運が生まれてきたのも確かである。

SDGsを取り上げることが非常に多くなってきた。特に地上波テレビがこぞって扱っているのは特徴的である。若者のテレビ離れが語られるものの、いまだに影響力は多大である。この機に、さらに認知度を高めたいところだ。ただ、認知度の向上はあくまで入り口に過ぎない。その先にやるべきことは何か。まずは政府がSDGsに基づき、持続可能な社会を構築するための具体的な目標を掲げることである。私

が委員を務める政府のSDGs円卓会議でも、以前から目標設定を求める意見があったが、ここにきてその声がひととき大きくなってきた。とりわけ経済界から、このような声が多く聞かれることは注目に値する。大きな目標が存在することで、達成するためには「いつ」「どのようなくことを」行うべきか、そして、目標と現状のギャップを埋めるには

「何をすべきか」がおのずと浮かび上がってくる。そうならば、経営マネジメントのサイクルにのせることができる、というのである。逆に言えば、目標がないと経済界を本格的に動かすのは難しい。

「何をすべきか」がおのずと浮かび上がってくる。そうならば、経営マネジメントのサイクルにのせることができる、というのである。逆に言えば、目標がないと経済界を本格的に動かすのは難しい。

「何をすべきか」がおのずと浮かび上がってくる。そうならば、経営マネジメントのサイクルにのせることができる、というのである。逆に言えば、目標がないと経済界を本格的に動かすのは難しい。

「何をすべきか」がおのずと浮かび上がってくる。そうならば、経営マネジメントのサイクルにのせることができる、というのである。逆に言えば、目標がないと経済界を本格的に動かすのは難しい。

具体的目標掲げ変革の推進を

「何をすべきか」がおのずと浮かび上がってくる。そうならば、経営マネジメントのサイクルにのせることができる、というのである。逆に言えば、目標がないと経済界を本格的に動かすのは難しい。